

第 3731 図

やしろ科



ひめぎぜんそう

*Symplocarpus nipponicus Makino*

主として東北地方から中国地方に亘る日本海斜面の溪畔の多湿地に生ずる多年生草本。また関東、中部にも時々生ずる。全草にニラ臭あり、多肉の根茎からは太紐状の根を生じ、葉は柄があり、長楕円形、長さ 10-15cm、円頭心脚、根元から倒れ気味につき、汚黄緑色、2 次脈が打ち込みになる。春伸びた葉は 5 月頃既に枯れ、其後根元から仏焰苞に包まれた花序を側出直立する。花後仏焰苞は崩れ去るが、肉穂花序は緑色粒面の長さ 2cm 許の楕円体として、側方に點頭し、年を越えて次年の開花後に成熟して脱落する。和名は姫坐禪草。比較的近年識別された。

とら (籐)

*Calamus Margaritae Hance*

台湾及び香港附近の低地林に自生する蔓性植物。茎の長さは往々 70m を越え、径は 3-5 cm、葉は互生し、長さ 1-2m 許、羽状複葉、小葉は線形、下部は鞘状となつて茎を固く抱く。葉の中肋及び葉柄に逆刺多く、葉鞘にも短刺があり、これによって他植物にからまり、それを覆って繁る。老茎の葉腋より穂状花序を出す。雌雄株を異にし、雄花序は複穂状花序、筒状で先端 3 裂する膜質の萼片とやや厚質線状長楕円形の花弁 3 個及び 3 雄蕊を具える黄緑色径 3mm 許の雄花を密集する。雌花は雁木状に屈折する花序枝の左右に十数個つき、花被片 6 個は小形、中央に大形の子房があり、果実は楕円形長さ 2.2cm 許、よく熟すれば黄色、表面に覆瓦状に配列する小鱗片がある。茎の皮は光滑、弾力があり、はがして籐細工とする。世に所謂籐は本種他東南アジア産の同属の他種、及び *Daemonorops* など他属植物の各種の総称である。

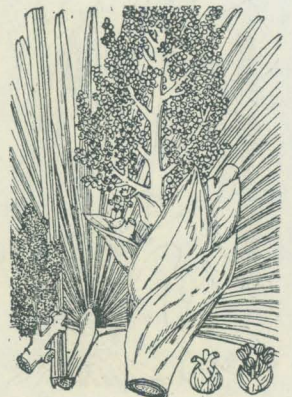
第 3732 図

やしろ科



第 3733 図

やしろ科



とらじゅろ (檳榔)

*Trachycarpus Fortunei Wendl.*

(= *T. excelsa Wendl.*)

var. *Fortunei Makino*

支那中南部原産の常緑喬木で、屢々人家の庭に栽植される。葉は単一の程の頂に叢生し、長柄をもって四方に平開或は垂下し、3 角柱状で上面は平たく、背面は丸く、左右に稜があり、基部は小歯を伴い、稈を包む繊維質の鞘に続く。葉面は凹形で、シュロより小形、扇状に深裂し、裂片は広線形、先端は 2 浅裂し、シュロより質硬く、先端は垂下することがなく、通常背面中央に針状の附属物がある。初夏葉腋から大形黄褐色の鞘状苞に包まれた花序を出して、細花を簇開する。雌雄異株で、雄花は黄色、花蓋 6 片、雄蕊 6 個を有し、雌花は黄緑色、花蓋 6 片 1 雌蕊あり、花後、扁球形の果実を結び、はじめ帯黄色、後に黒藍色粉白を呈する。

ひろろ (蒲葵)

*Livistona subglobosa Martius*

九州、琉球、小笠原島及び台湾の暖地の島嶼及び海岸に近い森林中に自生する常緑喬木で、稈は高さ 3-10m に達し、シュロより太く、単一で分枝せず、直立し、基部は膨大する。葉は掌状葉で長柄を有し、柄は背面の丸い 3 角柱状で、左右は稜となり、下半は縁に短大な刺があり、下部は繊維質の葉鞘となる。葉面はシュロより一層濶大で、白ちゃけた緑色を呈し、略々円形、裂片は線形で先端は 2 裂し、先は尖り、且つ往々垂下し、中肋は葉身の中央に達する。春に葉腋から舟形大形の苞葉を伴う瘦長な花序を横出して黄白色の細小花を簇開する。雄雌異株で、花に萼片、花弁各 3 個、雄花には 6 雄蕊、雌花には 1 雌蕊があり、花後、楕円形、長径 1.5cm 許の果実を結び、初め緑色、後青磁色となる。

やし (椰、椰樹) 一名ここやし

*Cocos nucifera L.*

熱帯一般に生ずる常緑喬木で、海岸の砂土、珊瑚礁などによく生育し、長さ 20-25m に達し、幹は単一で径 20-30cm、基部は膨大し、頂に 20 数個の大形の羽状葉を叢生して四方に広がる。葉は帯黄緑色、長さ 4-5m、小葉は線形、革質長さ 50-70cm、先端は尖り、葉柄の基部は拡大して幹を抱き、褐色繊維質の粗毛を生ずる。葉腋から舟形大形の苞に包まれた花序を出し、帚状に分枝して、先に雄花を多数、基に雌花を少数つける。花は 3 萼片、3 花弁を有し、雄花は径 2cm、花弁は披針状長楕円形、6 雄蕊あり、雌花は径 3-4cm、萼片は花弁と共に広く、円状卵形径 2cm、3 岐する短花柱がある。核果は大形で鈍 3 稜状卵状長楕円形、長さ 25-40cm、先端は狭って 3 嚢をなし、基部に發育肥大した宿存萼を具える。

びんろろじゅ (檳榔)

*Areca Catechu L.*

馬來地方原産の常緑喬木で、時に温室で培養される。稈は単一、無枝高さ 4-10m 許、通直で、基部は少し膨大し、若い部分は鮮緑色で光沢あり、輪状の葉痕は白い。葉は羽状複葉をなして頂に叢生し、長さ 1-2m、成葉は屢々下方に彎曲、各小葉は広線形、鋭頭で縦に翼を有し、葉柄はやや短かく背面丸く左右に稜あり、下方は急に拡がって緑色平滑の葉鞘となる。花序は最下の葉鞘の腋から出で、これを押し開いて落させしめ、帚状に分枝して 50-70cm 許に達する。上方に多数小形の雄花を下方に少数大形の雌花を有し、共に萼片、花弁各 3 個があり、雄花には雄蕊 6 個、雌花には仮雄蕊 3 個及び大形の子房 1 個がある。果実は長さ 7cm 許、歪卵形で、初め緑色、後に橙黄色となる。未熟の果実は熱帯における嗜好咀嚼料として有名である。

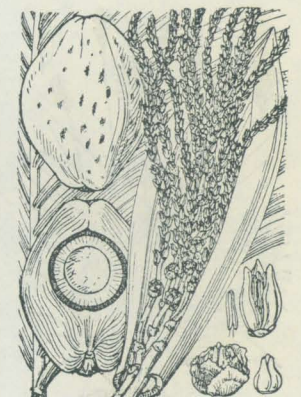
第 3734 図

やし科



第 3735 図

やし科



第 3736 図

やし科

